

2021年度キリスト教文化研究所 公開講演会について

金城学院大学キリスト教文化研究所は、キリスト教の宣教活動のために、毎年、公開講演会を開催しています。今年度の公開講演会はアジアの視点から日本のキリスト教を問い直すチャンスにしたいと考えています。



今年の4月、菅義偉首相が訪米して日米首脳会談を行い、「日米首脳共同声明」を発出しました。そこでは香港と新疆ウイグル自治区の人権状況への懸念が指摘されました。背景には昨年6月30日に全人代の常務委員会で全会一致で可決・成立した「香港国家安全維持法（国安法）」があります。



一国二制度という高度な自治は骨抜きにされ、民主派の政治参加の道は事実上閉ざされました。中国共産党による厳しい人権抑圧、習近平（シーチンピン）政権による香港への支配が強まっていると報道されています。

一昨日の6月24日、『朝日新聞』（朝刊）は「香港リング日報、廃刊」という見出しで、香港社会で中国政府を正面から批判してきた報道機関、『リング日報』が24日付の朝刊を最後に同紙の新聞発行を終えること——香港国家安全維持法（国安法）による徹底的な弾圧を受けて経営が維持できなくなり、創刊から26年で幕を下ろすことになった結果、言論の自由は重大な打撃を受けること——を報道しています。

地球規模の交流が行われる現在、国際的な視座のなかで考える信教の自由の問題は、他国に日本のキリスト教について伝える際にも欠かせない視点です。今回の講演会の講師は中国近現代史におけるキリスト教の研究を専門とする松谷曄介先生（本研究所所員）です。本日は専門家の立場から、中国とキリスト教について、特に香港と中国大陸において自由のために戦い投獄されたキリスト者の姿を通して、「真の生」とは何か、また東アジアと日本における自由・民主主義の将来についての講演をお願いしました。キリスト教を日本だけで考えるのではなく、アジアのなかできちんと位置づけ、国際的な視座のなかで、世界のキリスト教、日本のキリスト教の問題を問い直してみたいと思います。（2021年6月26日）